

- る気管支喘息と肺気腫の鑑別における CT の有用性. 日胸疾会誌 26: 493-498, 1988
- 18) 光井庄太郎: 喘息死の現況. 治療学 10: 690-694, 1983
- 19) 福田 健: 定量噴霧式吸入器による吸入療法. 呼吸 5: 197-204, 1986
- 20) Woolcock AJ: Worldwide differences in asthma prevalence and mortality. Why is asthma mortality so low in the USA?. Chest 90: 40s-45s, 1986
- 21) Wichert PV: Asthma-Therapie-zuviel oder zuwenig?. Dtsch med Wschr 113: 799-800, 1988
- 22) Johnson AJ, Nunn AJ, et al: Circumstances of death from asthma. Brit med J 288: 1870-1872, 1984

「引用」についての豆知識

「引用」の範囲を超えて他人の著作物を, 自身の著作物へ取り込む場合(「転載」)には相手方(著作権者・出版社)の許諾が要ります。(許諾の条件として著作権使用料を請求される場合もあります) 但し, 「引用」の条件を満たして利用する場合は自由に利用できます。

1. 「引用」の条件

- 1) その著作物が既に公表されていること。
- 2) 執筆上(自説の説明・展開, 学説の批評などのため)その文章, 図表を取り込み使用する**必然性**がないと判断できないこと。
- 3) 引用しようとしている文章の長さや, 図, 表の数・量が客観的にみて**正当な範囲**にあること。
- 4) 原則として, 改変を加えず, **原形を保持**すること。(改変使用の場合は, その旨の表示を必要とする)
- 5) 原著者の名誉や声望を害したり, 原著者の意図に反した使用法をしないこと。(例えば, 原著者が既に訂正・補足した学説を, ことさらに訂正・補足以前のかたちのまま引用し, あるいは引用して批評するなど)
- 6) 引用された文章, 図表などがそれと判るよう明示すること。
- 7) 出所(出典)を引用個所に近接して明示すること。

2. 改変使用について

- 1) 原著者の意を害さない範囲で内容を要約しての使用, あるいは, 外国語を日本語に訳しての使用は「引用」として認められている。この場合は「出所の明示」に加えて, さらに「…より改変(あるいは翻訳)」などの“ことわり”を入れることが必要となる。
- 2) 二つ以上の著作物を使用しそれを複合利用する場合は, 出所の明示に加えて「…と…とより複合」などと, その旨付記する。
- 3) 著しい改変を加え, もはや「引用」とは認められない図表などの場合, それを新しい原図(表)とするか否かは, そこに盛られる表現上の creativity の問題であり, その判断は著者自身の学問的良心による。

「引用」かどうか疑わしい場合(特に書籍から利用する際には, まず原著の出版社に連絡されることをおすすめします。「出版権」設定に伴い出版社も複製の権利を所有しておりますし, 著者が「著作権」の運用を出版社に委託している場合が通例となっております。

(上記は日本医書出版協会 発行の『著作権の知識—編集・執筆のために』より抜粋。発行所: 電話 03-818-0160)

編集室